

計のみでは、一人当たり37万9千円が使われたこととなりました。

町税収入6.2%の減少

収入の内訳をみると、町税が9億4784万4千円、地方交付税は20億4142万9千円でした。

町税収入については、景気の低迷等により、前年度決算額と比較して6221万6千円（6.2%）の減額となりました。

税目ごとの状況では、町民税のうち所得割が、前年度と比較して8322万9千円（18.8%）の大幅な減額となり、法人税割についても35.2%の減少となったことから、町民税全体で18.9%減少しました。

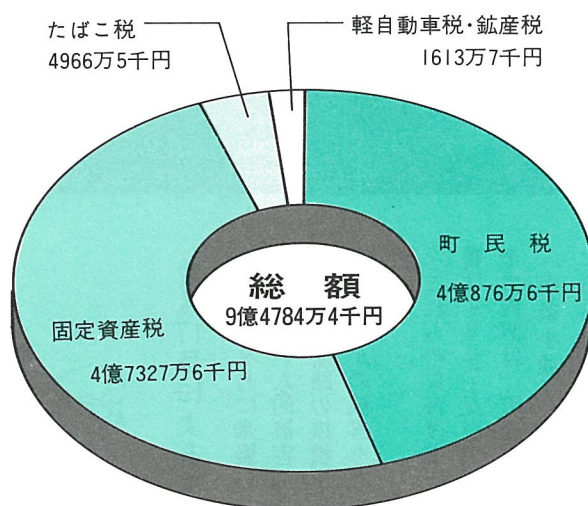
一方、固定資産税は、新築家屋の増加等により、前年度と比較して3291万5千円増額となったことから、7.5%の伸びとなりました。

減税補てん償を導入

特別減税の影響が大きかったことから、「減税補てん償」を導入して1億40万円を借り入れしました。

減税補てん償は、特別減税の影響による減収を補うため、特別に借り入れが許されたもので、

町税の内訳



地方交付税2.6%の伸び

収入の大宗をなす地方交付税は、前年度の決算額と比較して2.6%とわずかな伸びはありますが、5258万3千円の増額となりました。

地方交付税は、収入だけでは賅いきれない財源を補うために国から交付されるもので、収入全体に占める割合は、41.1%と一番大きなものとなっています。

支出決算が減額となったのは

4ページの支出決算額の表をみると、前年度の決算額と比較して減額となったのは、農林水産業費と土木費です。

特に農林水産業費は、前年度と比較して約10億円と大幅な減額となりました。これは、平成7年度に一元集出荷場建設事業補助として約4億円、栗山川河川改修補償関連工事に伴う食肉センター特別会計への繰出金として約7億円と多額の支出がありました。この補助及び繰り出しが7年度のみで終了したことが主な理由です。

道路整備は順調に進捗

土木費については、町の主要事業として推進してきた光スクーリングラインの自転車歩行者道設置工事や町道2383号線（尾垂地先）及び町道0103号線（母子・篠本地先）の道路改良工事が順調に進捗したことにより、これらの事業量が減少したことが、前年度と比較して減額となった主な要因です。

一方、平成8年度に新たに着手した事業として、町道0102号線（富下・宝米地先）と光スクーリングラインの道路改良工事があります。町道0102号線については、幅員が狭いうえにカーブが多く危険なため、整備を行い安全な交通の確保を図ります。また、光スクーリングラインについては、危険防止のため、老朽化した道路の拡幅改良工事を行います。



平成8年度に整備した町道0102号線（富下地先）